

## 活動報告書

報告者氏名：荒井 佑輔 所属：県立相模原養護学校小学部 記録日：2013年2月19日

### 【対象児（群）の情報】

- ・学年 小学部5年 男子（A）
- ・障害名 広汎性発達障害
- ・障害と困難の内容

小学部3年生まで、行動様式の固定化から、家庭では栄養剤、学校ではミキサー食しか食べないと決めていた。一度手順や行動を決めると、必ずその通りに行う傾向がある。4年生の時から、「固形物をその場ですりつぶして食べ、少しずつ固形に近づける」「食べる場所を設定して一定の言葉かけで食べる」など、新しい行動を形成するための手順や、具体的な指示を理解できるようになってきた。固形の状態で給食を食べられるようになったが、外食や家庭など他の場面で食べることは難しい。

絵カードのマッチングができる。「ちょうだい」「トイレ」のサインができる。有意語は無い。

### 【活動目的】

- ・当初のねらい

給食（固形物）を食べる行動が定着したため、「何を食べているのか」が、より具体的にわかり、「次も食べる」「どんな場面でも食べる」につなげていく工夫が必要だと考えた。A児が、ipadの食べ物シンボルボタンを押して、何を食べているのかを絵や音声で確認する方法を用いた。「ipadで要求したものを食べる」という、新しい行動を形成したA児が、本人の特性でもあるルーティーン化を利用して、外食や家庭の場面でも同様に食べることができるようになることをねらう。

- ・実施期間

給食指導の場面：2012年6月20日～12月18日まで継続して実施。

外食の場面では：2012年7月5日（レストラン） 12月19日（マクドナルド）

2013年1月17日、2月21日（ケンタッキー） 3月1日（シェーキーズ）

- ・実施者

荒井 佑輔（特別支援学校教諭）

- ・実施者と対象児の関係

学級担任

### 【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

給食の場面では、ipadの食べ物シンボルボタンを押して、どんな形状のものでも食べる様子が見られるようになったが、外食や家庭など他の場面では食べる様子がなかった。

- ・活動の具体的内容

絵カードコミュニケーションのアプリを利用した。給食指導の場面では、「パン」のシンボルボタンを押すとパンがもらえるなど、何を食べているのかが具体的に絵や音声でわかるようにした。どんな形状のものでも、「パン」はパン、どんな場面（場所）で食べても「ごはん」はごはんであるということが認識できるようになると考えた。

外食の場面では、「ポテト」「ハンバーガー」のシンボルボタンを、ファーストフード店のレジで押すことで注文する。出てきたものが、給食のときに食べることできたポテト、ハンバーガーであると確認することで、店内でも食べることができると考えた。

・対象児の事後の変化

給食の場面では、食べられるものが増えた。教員が口までスプーンを運んで食べていたものを、自分からスプーンですくって食べられるようになった。どんなものでも（肉や魚、野菜など）、噛んで食べられるようになった。友達同士で席を並べても、食べられるようになった。

外食の場面でも、ポテトやハンバーガー、カレーなどを自分から食べることができた。「ちょうだい」のサインで、おかわりを要求することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

A 児は、これまで場面や人、食べ物の形状の違いによって、食べたり食べなかったりすることが多かった。何を食べているのかを、具体的に絵や音声でわかるようにしたことで、どんな形状のものでも、「パン」はパン、どんな場面や人と食べても「ごはん」はごはんであるということが、感覚的にわかって、自分から食べだしたとを感じる。外食の場面でも、食べられるようになったものを、絵と音声で注文し、出てきたものがいつも食べているものと少し違っても、「同じ」だと認識し、安心して食べる様子につながったと考えられる。

・エビデンス

2011年9月 固形物をその場ですりつぶして食べる。実物とすりつぶした物のマッチング。

12月 好きなパンのかじりとりができる。「ちょうだい」でパンを要求できる。

2012年6月 少しずつ固形物に近づけ、ipad 絵カードアプリで食べているものを確認する。

7月 教員が指差したシンボル絵カードをタッチしてから、実物を食べる。

交換条件に応じる様子が見られる。固形物を少し食べてから好きなものを食べる。

給食のカレーライスを自分から食べる。レストランでカレーを注文して食べる。

9月 一度食べたものは、絵カードアプリや教員の言葉かけの促しに応じて食べる。

好きなものを、絵カードアプリをタッチして要求して食べる。(図1)

12月 マクドナルドで、「ポテト」「ハンバーガー」を絵カードアプリで教員と一緒に注文する。

自分からポテトを食べる。ハンバーガーをかじりとりすることができた。(図2)

家庭で、パンやヨーグルトを朝食、おやつとして食べる。デイサービスでも食べられる。

1月 絵カードアプリがなくても、ほぼ毎日全部の給食を食べる。

ケンタッキーでも注文してポテトやチキンを食べる。



図1 要求したものを食べる



図2 絵カードアプリで注文する

・その他エピソード

家庭では、朝食やおやつに、パンやヨーグルトを食べることができるようになってきた。食の幅を広げていくことにはつながっていない。「学校では食べるが、家庭では食べない」「教員とは食べるが、保護者とは栄養剤」と、場面や人によってパターンをつくっていることが考えられる。保護者を給食に呼んで、スプーンを口に運んでもらったり、文化祭のお弁当のときに一緒に食べたりすることで、少しずつ行動様式に変化が見られるようになってきた。ipad を家庭で利用する際のポイントを、保護者に伝えていく工夫を現在行なっている。